中学校１年　社会　調査結果の考察

（１）設定通過率との比較　　※表中の数値は設問数

分類／設定通過率の	観点別			内容別			計
	思考・判断・表現	技能	知識・理解	小学校	地理的分野	歴史的分野	
＋10％ より高い	0	0	0	0	0	0	0
±10％ の範囲内	7	1	3	6	1	4	１１
－10％ より低い	6	1	2	4	3	2	9
計	１３	2	5	１０	4	6	２０

（２）考察

①　全体について

ア　移行期であることを考慮し、今年度は資料を活用して考える問題を多く出題した。そのためか、設定通過率より「－10%より低い」結果となった問題が20問中９問あり、平均通過率も設定通過率の平均を10.0ポイント下回った。

イ　今年度出題した新しい問題のうち６問において通過率が設定通過率より「－10%より低い」結果となっている。これらについては特に指導の改善が必要である。

②　成果

ア　経年比較しているほとんどの問題において通過率の上昇が見られ、指導の改善が図られている。

イ　歴史的分野はおおよそ通過率が設定通過率の「±10%の範囲内」であり、年表や歴史地図などの資料を活用する技能が身に付いてきている。また、年代と世紀の関係や古代日本の歴史についてはおおむね定着してきている。

③　課題

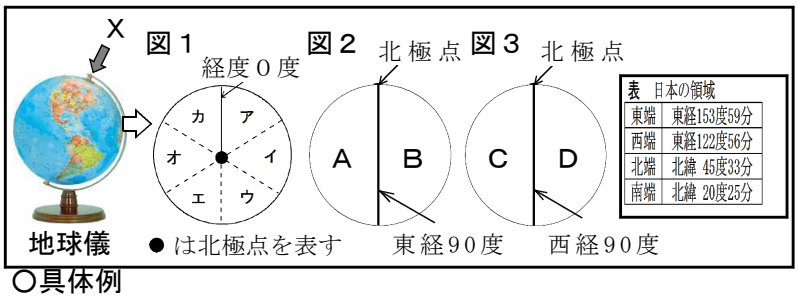
ア　地図や地球儀を活用する力が不十分であるため、世界や日本の地域構成が大観されていない。

（３）今後の指導

ア　地図や地球儀を活用し、緯度や経度、大陸と海洋の分布、主な国々の位置、地域区分などを正しく捉えさせながら世界の地域構成を大観させる学習の充実を図る。

○ポイント［(4を例として］

・地球儀と模式図を活用し、目安となる経線、緯線に着目させることで世界の地域構成を大観する指導。



○具体例

・**図１**では、北極点と経度０度に着目させることで、これは北半球の模式図であること、また、**ア～ウ**は経度０度から西経180度までの範囲を、**エ～カ**は東経180度から経度０度までの範囲をそれぞれ示していることに気付かせる。

・**図２、３**では、北極点と経度90度に着目させることで、**図２**は経度０度から東経180度までの範囲を、**図３**は経度０度から西経180度までの範囲をそれぞれ示していることに気付かせる。

・**図１～図３**の見方については、実際に地球儀と比較して確認させる。

・その上で、六大陸や三大洋、主な国々が**図１～図３**ではどの範囲に位置するのかを調べさせる。

・地球儀の模式図を基に考察する問題であり、平成23年度秋田県公立高等学校入学者選抜学力検査にも類似の問題が出題されている。

・小学校での既習事項を生かし、日常の授業でもこれまで以上に世界地図や地球儀を積極的に活用し、親しませるように配慮する。

・左の具体例や次のような活用例を通して、世界の地域構成を大まかに捉えた世界地図を描いたり、生徒が自分の頭の中に地球儀をイメージしたりできるように指導する必要がある。

地図や地球儀の活用例

・地球儀を使って陸半球、水半球を図に描く。

・地図や地球儀で六大陸と三大洋の大まかな形状や位置関係を捉える。

・地球儀で赤道や本初子午線など目安となる経線、緯線の位置を確認する。

・面積の正しい地図や中心からの距離と方位の正しい地図等いろいろな種類の地図を読み取る。

(4全国調査の関連問題、高校入試を参考